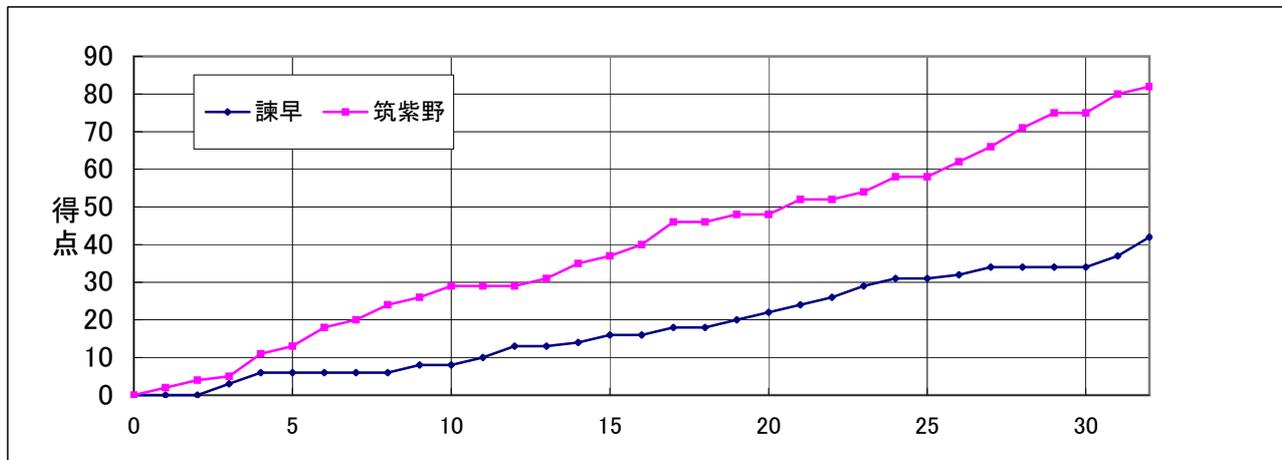


大会名	平成21年度 第30回全九州中学生 バスケットボール春季選手権大会	A2	10:50	男子準決勝													
		諫早 42 (長崎2位) ●	<table border="1"> <tr><td>6</td><td>—</td><td>24</td></tr> <tr><td>10</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td>15</td><td>—</td><td>18</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>24</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	6	—	24	10	—	16	15	—	18	11	—	24	—	—
6	—	24															
10	—	16															
15	—	18															
11	—	24															
—	—	—															
期日	2010年(平成22年)3月14日(日)																
会場	大分県立総合体育館																

主審 平野 智広 副審 豆塚 宣男



タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q		OT1	OT2
07:11	—	21:10 26:18	—	—

諫早

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 川路 直樹 (C)	9	0	3	3	1
5	中山 大輝	—	—	—	—	—
6	* 西村 憲祐	9	1	2	2	2
7	* 古賀 俊裕	8	0	4	0	0
8	中島 尚柔	—	—	—	—	—
9	田上 諒	—	—	—	—	—
10	山口 悠稀	—	—	—	—	—
11	小川 将史	—	—	—	—	—
12	* 林 尚紀	15	3	3	0	0
13	廣重 知彦	—	—	—	—	—
14	下釜 脩平	—	—	—	—	—
15	* 池田 知樹	1	0	0	1	2
16	松山 尚輝	—	—	—	—	—
17	宮崎 滉大	—	—	—	—	—
18	林 裕基	—	—	—	—	—
コーチ	ト部 靖史					
合計		42	4	12	6	5

タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q		OT1	OT2
03:18 12:47	—	—	—	—

筑紫野

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 帯刀 滉暉 (C)	14	1	5	1	1
5	* 砥綿 啓伍	12	0	6	0	2
6	* 野中 亮吾	30	0	14	2	2
7	* 中村 文紀	7	1	2	0	3
8	原田 成斗	0	0	0	0	0
9	鐘江 啓斗	—	—	—	—	—
10	添田 拓斗	0	0	0	0	0
11	市川 恭平	—	—	—	—	—
12	濱田 健太	0	0	0	0	0
13	* 安藤 琢郎	19	0	9	1	4
14	瀬戸 洸平	0	0	0	0	0
15	久松 龍孔	—	—	—	—	—
16	田代 浩太郎	0	0	0	0	0
17	上野 達也	—	—	—	—	—
18						
コーチ	帯刀 三寛					
合計		82	2	36	4	12

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル R…リバウンド As…アシスト

戦評

準決勝男子は諫早対筑紫野の試合となった。筑紫野はオールコートマンツーマン、対して諫早はハーフコートマンツーマンのディフェンスを引くスタートとなった。お互い粘り強いディフェンスのなか、筑紫野#6野中のジャンプシュートが連続で決まる。対する諫早は#12林の3Pシュートで対抗するが、筑紫野のオールコートマンツーマンを崩せず、なかなかリズムを作れない。4分過ぎ、筑紫野は2-2-1のゾーンプレスから2-3のゾーンに切り替え、#5砥綿、#6野中、#13安藤の連続シュートにより差を広げる。筑紫野のゾーンプレスに対しては諫早はタイムアウトを取る。しかし、諫早は筑紫野の敷いたゾーンプレスを攻略できず、24-6で1Q終了。

第2Qは諫早#6西村のジャンプシュートで始まる。対して筑紫野は#13安藤のレイアップで対抗する。筑紫野は1Qに続き2-2-1のゾーンプレスを行うが、次第に諫早もボール#7古賀に集め、反撃を図ろうとする。しかし、いくつかのチャンスはできるものの、決め手に欠き、なかなか点差は縮まらない。準決勝ともなるとお互いのディフェンスやルーズボールへのとびこみなどすばらしく、膠着状態となる。しかし、次第に諫早もゾーンプレスに対応しだし、#4川路#15池田などが得点を重ねる。筑紫野はゾーンプレスからの速攻で#7中村、#6野中、#13安藤が着実に得点をし、40-16で前半を終る。

第3Qは筑紫野の#7中村のジャンプシュートが決まりスタート。対して諫早は#6西村のジャンプシュート、#12林のゴール下のシュートで応戦する。諫早のローテーションが前半に比べ機能しだし、#7古賀のリバウンドからのシュート、#12林の技ありのシュート、#4川路のジャンプシュートなどからオフェンスもリズムを取り戻していく。しかし、そのリズムを断ち切るかのごとく筑紫野は#6野中、#7中村のジャンプシュートで攻めていく。リズムを取り戻した諫早が追い上げを開始したが、筑紫野のオフェンス力も際立ち、一進一退の攻防が行われた。58-31筑紫野リードで3Q終了。

第4Qは筑紫野はゾーンプレスからターンオーバーし、#13安藤の連続シュート、#4帯刀の速攻で得点差をひろげていく。諫早は小さなミスが続き、建て直しのタイムアウトをとる。しかし、筑紫野は#6野中のジャンプシュート、#7中村の3Pシュートが決まり、建て直す隙を与えない。その中で、一人気を吐き諫早#4川路がたて続けにシュートを決める。筑紫野は終始ゾーンプレスからの速攻で得点を重ねていく。諫早は何とか食下がらうとするが、力及ばずタイムアップ。お互い懸命にプレーを行った大変すばらしい試合であった。

記事者 石田、市川 (所属) 大分県バスケットボール協会